

**2013年度 第1四半期 連結業績
国内機関投資家・アナリスト向けカンファレンスコール Q&A(要旨)**

日 時: 2013年8月12日 16:00～16:45

回答者: ソニーフィナンシャルホールディングス 専務取締役 渡辺 寛敏
ソニー生命 執行役員常務 清宮 裕晶
ソニー損保 執行役員 石井 隆行
ソニー銀行 執行役員 田中 浩司

※内容については、理解し易いよう部分的な加筆・修正およびQA順序の並べ替えをしております。

【Q&A】

Q1:【ソニー生命】

個人保険の2013年6月、7月における新契約高は、前年同月に比べてどうだったのか？

A1:

個人保険と個人年金保険を合わせた新契約高は、6月がボトムで前年同月比90%を割り込んだ。第2四半期になり足元では前年比90%を上回っている。

(追加質問: 2013年4月の新契約高には、3月に計上が間に合わなかったものが含まれているのか?)

含まれている。また、料率改定を5月に行った積立利率変動型終身保険の駆け込みの影響も含まれている。

Q2:【ソニー生命】

2012年度の決算発表時、標準利率改定の影響による責任準備金の負担増は2013年度通期で約75億円という説明だった。今回、2013年度1Qで55億円の影響があったとのことだが、2013年度通期の影響はどのくらいなのか？

A2:

55億円の大半が積立利率変動型終身保険の影響で、1Qでほぼ落ち着いてきている。2013年度通期では当初の見込み通り70～80億円程度になると見込んでいる。

Q3:【ソニー生命】

ライフプランナー在籍数について、中期経営計画では2016年3月末で4,400名を目標としているが、これには嘱託・契約ライフプランナーを含めているのか？プレゼンテーション資料 P.14のライフプランナー在籍数の内訳をみると、嘱託・契約ライフプランナー数が増加し、通常のライフプランナー数が減少しているが、この傾向は続くのか？

A3:

60歳以上のライフプランナーが少しずつ増えていることもあり、2016年3月末の4,400名の目標は嘱託・契約ライフプランナー数を含んでいる。採用は計画どおりに進捗している。

(追加質問: 4,400名を達成するには、2013年6月末の在籍数から追加で273名必要になる。今後は、嘱託・契約ライフプランナー数が、ライフプランナー在籍数の増加に寄与する割合が増えていくのか？また、嘱託・契約ライフプランナーの生産性は、通常のライフプランナーと比べてどうなのか？)

60歳以上のライフプランナーが少しずつ増えているため、ライフプランナー在籍数の増加に寄与する割合も増えていくと考えている。

嘱託・契約ライフプランナーになるには一定の業績基準の達成が必要となるため、生産性は大きくは変わらない。

Q4:【ソニー生命】

販売が好調なソニーライフ・エイゴン生命の販売チャネルと、リスク管理方法について教えてほしい。

A4:

ソニーライフ・エイゴン生命の販売チャネルは、ソニー生命のライフプランナーと銀行窓販で、どちらも好調に推移している。リスクヘッジについては、エイゴンとのJVで設立した再保険会社へ出再している。

Q5:【ソニー生命】

標準予定利率の改定の影響で、前年度においてソニー生命は新商品の発売を見合わせたが、2013年度においては、米ドル建保険以外に、新商品の発売予定はあるか？

A5:

2013年度においては、5月に米ドル建保険を発売したが、下期にも新商品を発売する予定。商品の内容についてはまだコメント出来ない。

Q6:【ソニー生命】

2013年5月に発売した米ドル建保険の販売状況は？

A6:

想定をやや下回るスタートではあるが、発売開始からまだ2カ月であり、特に問題とは考えていない。

Q7:【ソニー生命】

2013年5月に発売した米ドル建保険の、2013年度の販売目標について教えてほしい。

また、ソニー生命の米ドル建保険は、他社に比べて為替手数料がかなり低いが、新契約の新契約マージンはどの位の水準か？

A7:

ソニー生命はコンサルティングに基づくニードセールスを行っており、特定の保険商品における具体的な販売目標は持っていないが、参考までに、会社の販売見込みでは占率で数年後に年間新契約高の10%を切る程度と考えている。

新契約マージンの水準については、円建の保険商品より若干高い程度。

Q8:【ソニー生命】

新契約マージンが、2013年3月末の年間(12カ月)は3.5%だったのに対し、2013年6月末(3カ月)は6.5%に上昇したのは、主に超長期金利上昇と、2013年4月以降に実施した保険料率改定の影響によるものとのことだが、影響の内訳を教えてほしい。

A8:

超長期金利上昇と保険料率改定でほぼ同じくらいの影響。

Q9:【ソニー生命】

2013年6月末の債券のデュレーションが若干短くなっているが、何か理由はあるか？

A9:

超長期債の購入のペースは変わっていない。2013年6月末の金利が2013年3月末に比べて上昇したため、計算上、債券のデュレーションが若干短くなった。

Q10:【ソニー損保】

事故発生率が低下した背景について、マクロ要因によるものなのか、個社の要因によるものなのか教えてほしい。また、保険金単価の状況について教えてほしい。

A10:

事故発生率は、車両事故を中心に全体的に低くなってきており、損保業界全体の動きに近いと考えている。ソニー損保の場合、保有契約件数が増加している分、事故件数は前年同期に比べて増えているが、保有契約件数の伸びを除くと、2013年2月以降、事故件数は減少傾向にある。

保険金単価については、その車両事案において保険金単価の低い事故の支払いが減っていること、部品単価が上昇していることから、若干上昇している。人損系の保険金単価にはあまり変化はない。

(追加質問：保険金単価の低い事故の支払いが減少しているのは、2013年4月に導入された新ハンフリー等級制度の影響か？)

はつきり断定はできないが、おそらく要因のひとつだと考えている。

Q11:【SFH】

2013年度期末配当について、6月の経営方針説明会では1株あたり予想配当は25円という説明であったが、この8月に1株あたり予想配当を上方修正した理由は？

A11:

経営方針説明会の時点では、4月の日銀政策発表後の超長期金利の動向が不透明であったことなどにより、金利環境や業績進捗を確認したかったため、いったん据え置きとした。今般、1Qの業績動向とそれに基づく年度見通し、金利動向の落ち着きなどを確認して判断をした。

Q12:【SFH】

配当性向目標を40%とすると、まだ増配余地があると思うが、今後の金利動向などによっては、増配スピードが鈍る可能性はあるのか？

A12:

配当性向はあくまでも目安であり、今後の株主還元については、引き続き金利動向や業績環境などを勘案しながら検討していく。

以上